

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0 / A ¥ 1 8 9 0 / B ¥ 2 0 9 0 / C ¥ 2 2 5 0 / D ¥ 2 4 9 0 }

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

[www.tambourine-japan.com](http://www.tambourine-japan.com) email: [song@tambourine-japan.com](mailto:song@tambourine-japan.com)

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

[CD/USA {female}] (P14) [CD/CANADA] (P18)

[DVD&CD/USA]

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (DVD) B  
\*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (CD) A  
(2000年11月、Austin City Limits でのライブ。バックは Eric Ambell {ギター}、Kelly Looney {ベース}、Will Rigby {ドラムス}。全15トラックの74分。2008作。New West)

[DVD/USA] NTSC all regions

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance A  
(B. Springsteen の初期のベスト・ライブ集。全14曲。1988年/2005年。American Legends)  
\*WILLIE NELSON:Willie A  
(91年の“The Great Outlaw Valentine Concert”{全14曲}と  
“Nashville Superstar Concert”{全12曲}。88分。2002作。MVD)  
\*TONY JOE WHITE:In Concert A  
(92年ドイツのライブ・ハウスでの熱いライブ。全11曲。約60分。ドイツInakustik)  
\*EMMYLOU HARRIS:Live In Germany D  
(2000年の Spyboy をバックにしたドイツでのライブ。全13曲。2011作。Immortal)  
\*JOHN HIATT:Live From Austin Tx A  
(開封。1993年のライブ。w. Davey Faragher, Michael Urbano, Michael Ward。全14曲。2005作。New West)  
\*STEPHEN STILLS AND MANASAS:The Best Of Musikladen A  
(72年のテレビ・ショーのライブ映像。40分。Pioneer)  
\*CROSBY, STILLS & NASH:Live In L. A. A  
(1982年ロサンゼルスでの New Universal Amphitheater でのライブ。全23曲で80分。2007作。オランダ Immortal)  
\*BIG BROTHER AND THE HOLDING COMPANY:Hold Me A  
(2007作。Dig Music)  
\*ANI DIFRANCO:Trust A  
(2004年5月11日&12日の二日間行われた Washington DC のクラブでのライブ。全21曲。2004作。Righteous)  
\*BOB DYLAN:Don't Look Back C  
(開封。1965年イギリス・ツアーのドキュメンタリー・フィルム。1時間35分。67/99作。Docurama)

[DVD/USA] PAL all regions

※PAL 専用 DVD プレーヤーかパソコンで再生可能

\*WILLIE NELSON&LEON RUSSELL: In Concert a  
(Paradise Show のライヴ。Leon [ピアノ] と Willie [ギター&ピアノ] のアコースティックなサウンドとデュエットそして Maria Muldaur&Bonnie Raitt そしてフルバンドの数曲は二人の持ち味がたっぷり楽しめるライヴ。55 分。2005 作。ドイツ All Stars)

\*JAMES TAYLOR: In Concert a  
(副題 "You've Got A Friend"。バンド付き 18 曲入ライヴ。"Sweet Baby James" から変わらぬ James の温厚な人柄がそのままかつ音楽性もシンプルなのからポップでファンキーなまでのままの温かいライヴ。2004/2005 作。82 分。ドイツ All Stars)

### [DVD/USA] NTSC Region 1

※NTSC Region 1 専用 DVD プレーヤーかパソコンで再生可能

\*JIM GROCE: Have You Heard — Live A  
( "You Don't Mess Around With Jim", "Operator", "Bad, Bad Leroy Brown" 他全 15 曲入ライヴ。約 1 時間 10 分。2003 作。Shout)

### [DVD-AUDIO/USA]

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

\*JOHN SEBASTIAN: From The Front Row, Live ¥1000  
(全 16 曲入弾き語りライヴ。画像はライヴ映像ではなく、1 曲 1 曲静止映像。2003 作。Silverline)

### [VIDEO/USA] 日本の VHS 方式でご覧になれます

\*ALLMAN BROTHERS BAND: Live At Great Woods D  
(Gregg Allman, Dickey Betts ほかによる Allman の 91 年のライヴ。11 曲。90 分。92 作。Sony)

\*STEVE EARLE&THE DUKES: Transcendental Blues Live D  
(全 17 曲。70 分。2000 作。E-Squad)

\*TROUBADOURS OF FOLK MUSIC D  
(93 年 UCLA でのライヴ。Arlo Guthrie, Richie Havens, Beausoleil, John Prine, Janis Ian, Jefferson Starship, Janis Ian, Odetta。54 分。94 作。Rhino)

### [CD/USA]

\*CHRIS SMITHER: Call Me Lucky D  
(この 6 年間の間に作った新曲を収録した新作で二枚組。Bill Conway [ドラムス], David Goodrich [ピアノ、各種ギター], Matt Lorenz [ギターリフ、ヴォーカル] の少数精鋭で固めて制作された本作は、本当に新曲集?! と思ってしまうほど、彼の初期の妖艶なムードを醸し出した唄が多く、おおと聴き入ってしまった。その妖艶なムードは素朴に凝縮した音作りに加えて、齢を重ねた分、枯れた味わいにもなっていて、味わいが深い。自然体でうたう Chris の唄は、唄そのものに魂が感じられもする。過去の名曲とそっくりな曲 "By The Numbers" は特に心を奪われるが、Chris 自身お気に入りのよ

うで、ディスク1とディスク2 {最後の曲} で二度収録している。  
そうした趣向をベースに覇気あるロック調の曲が数曲。2018 作。  
Signature Sounds)

\*CHIP TAYLOR AKA JAMES WESLEY VOIGHT: Fix Your Words B  
(ジャケット写真は Chip Taylor が子どもの頃の家族写真。左端が  
Chip で右端が母親の Barbara。Side A "Fix Your Words", Side B  
"When I Was A Kid" と分けられた本作は、これまでの Chip  
Taylor のどのアルバムより声が年老いていて、徹底して静かで、  
祈りや哀しみや懐かしむ気持ちが込められていて、唄がじわじわ  
と心にしみわたる。元々語りかけるように悠々と自作の唄をうた  
う Chip だが、彼の持ち味をさらに煎じ詰めた味わいを極めていて、  
感動の深さが深い。これほど身にしみてくる唄は聴いたことがな  
い。John Platania, Tony Leone, Tony Mercadante, Goran Grine,  
Greg Leisz 他による伴奏もぬくもり感がある。2018 作。  
Train Wreck)

\*JOHN GORKA: True In Time A  
(Red House の社長と担当者から「廃業」の知らせが届いたのは昨年  
末。Red House の最後のアルバムになった John Gorka の新作。いつ  
もの箱入りジュエルケース仕様かと思いきや、予算がなかったの  
か、薄いデジパック {紙ジャケ} 仕様。録音は 2017 年 8 月 31 日~8 月 2  
日の三日間。録音は少なくともこの 10 年間してきたように古い校  
舎で参加メンバーが集まって、演奏してから録音したという。  
J. Gorka はまるで思い出の詰まった実家に帰って、たつぷりと落  
ち着いた気分で、数々の「思い出」を唄にしようとしているかのよ  
うな、唄にも音にも何か懐かしさや寂しさ感じられるものになっ  
ている。J. Gorka が収録時に Red House の廃業を知っていたかどう  
かわからないが、本作から感じられる何かを懐かしむようなム  
ードは、本作を捧げた J. Gorka のプロデューサー John Jennings {2015  
年没} や SSW の Michael Johnson {2017 年 7 月没} などの親友の他界な  
ども関係しているのかも知れない。ゲスト: Eliza Gilkyson, Lucy  
Kaplansky, Jonatha Brooke。2018 作。Red House)

\*MICHAEL JOHNSON: Moonlit Deja Vu A  
(ミネソタのヴェテラン SSW の M. Johnson のラスト・アルバム。2012  
作。Red House)

\*JIM KWESKIN: Unjugged B  
(Jim Kweskin 爺さん、よくぞまあ米国の古い雰囲気唄ばかりの、  
それもバンジョーやギターの弾き語りのアルバムを作ってくれ  
ました。唄のほとんどは 1900 年代前半の頃の白人黒人の垣根のな  
い民謡。Jim 爺さんは、各民謡の様々な物語に心遊ばせ、一曲一曲  
を表情を変え、あるときは軽やかに、またあるときはスローに、に  
こやかにうたう。かと思えばしみじみとして、心に響く唄も。Jim  
はまるで古謡のレパトリー豊富な心優しい語り部爺さん歌手。  
Jim 爺さん流のメロディ・フォークの古びた感じがまた何とも言  
えず味わい深い。Jim 爺さんが客と一緒にうたうのが好きという  
Donovan の "Colours" で幕。宝物の Jim Kweskin's America と並ぶ  
宝物。w. Bonnie Dobson, Ben Paley, Tali Trow, Bill Denton。全 15

曲幸せ気分保証。2017 作。Hornbeam)

- \*MICHAEL McDONALD:Live on Soundstage ¥2690  
(CD+DVD のセット。元 Doobie Brothers の Michael McDonald の 2017 年 5 月、シカゴの Soundstage' s Grainger Studio でのライブ。ホーンや女性バックグラウンド・シンガー達も加わった大型ロック編成による本作は、Doobie で垣間見せていた彼のゴスペルやソウル・ミュージックの要素の強い音楽が、より強く打ち出されていて、その味わいの深さと彼のヴォーカルのパワフルさに驚かされる。音楽活動歴 45 年の蓄積の上に育まれた堂々たるソロ・ライブ・アルバムだ。Doobie のヒット曲 "Sweet Freedom" {ぼくも観客も大きな拍手！} 他全 13 曲。2017 作。BMG)
- \*JEFFREY MARTIN:One Go Around A  
(高校教師で SSW の Jeffrey Martin の三枚目。彼のスタイルは 70 年代の反骨のフォークや放浪者のフォーク。唄の素材は旅先での経験や聞きしたことなどだが、それらの唄は彼の唄の魔法にかかると 70 年代の米国 SSW/フォークの、それもコアな匂いを発する物語唄の世界に変わる。バックのエレキギター、ドラムス、スティール・ギター、ヴァイオリン、ベースなどによる腕立つ伴奏は最小限に抑えられていながら、味わい深く、言葉を噛みしめるようにうたう Jeffrey の唄の味わいは一層増している。2017 作。Fluff And Gravy)
- \*ERIC ANDERSEN:Mingle With The Universe B  
(副題 "The Worlds Of Lord Byron" イギリスの詩人バイロン男爵 ジョージ・ゴードン・バイロン {1788 年-1824} の詩に Eric Andersen が曲をつけてうたったもの。75 歳の年齢に相応しい晩秋の趣のある声で昔と変わらないアンダースン節。全体的に優しく穏やかな唄が多く、ずっと彼の唄の世界へと引き込まれる。一曲ウードをフィーチャーしたアラブ風のインスト曲もある。w. Inge Andersen {奥様}, Michele Gazich, Giorgio Curcetti, Cheryl Prashker, Paul Zoontjens。2017 作。独 Meyer)
- \*OLD SALT UNION:Old Salt Union A  
(Old Salt Union は、2014 年の Freshgrass Band コンテストで優勝したという米国中西部を拠点に活動する五太郎のニューグラス〜カントリーロック・バンド。印象はコンテストの名称の「フレッシュグラス」がぴったしの若々しさと初々しさと輝き感のある音楽。メンバーの内三名が SSW で、それぞれの持ち唄を土臭くって軽やかなサウンドと軽やかな唄とハーモニーで楽しませる。軽やかなカントリー・ロックのファンには絶好の唄と音楽というか、久々のホームラン・アルバム。不況地帯で生きる彼らは、だからこそ夢や愛を前向きに唄にしていこう。気分爽快作。2017 作。Compass)
- \*JAMES LUTHER DICKINSON FEATURING NORTH MISSISSIPPI ALLSTARS:I'm Just Dead, I'm Not Gone "Lazarus Edition" A  
(2009 年に 67 歳で亡くなった James Luther Dickinson が、2006 年 6 月 2 日、息子二人 {Luther&Cody} が主要バンド・メンバーの南部ロック・バンドの North Mississippi Allstars を従えて行ったコンサート・ライブ音源からのスペシャル・エディション版。スワ

ンプの名盤の誉れ高き彼のデビュー・アルバム“Dixie Fried”  
[1972年]で出逢ってから、南部音楽一途だった James Luther と彼の音楽を受け継ぐ North Mississippi Allstars とによる、説明不  
必要な骨太で本醸造な南部ロック～スワンプ。2006年/2017作。

Memphis International)

- \*THE SHOW PONIES:How It All Goes Down A  
(Show Ponies は Clayton Cheney {ヴォーカル、ベース} と Andi Carder {ヴォーカル、バズ} の男女のリード・ヴォーカルに Jason Harris {ヴォーカル、ギター}, Philip Glenn {フイドル}, Kevin Brown {トラムス} を加えた一  
姫四太郎の、ロスを拠点に活動するルーツロック・バンド。彼らの  
ロックは二人のヴォーカルを含めて、ルーツ色が濃く、また 70 年  
代のカントリー・ロックのように音楽に活気がみなぎっていて、  
雑草のようにたくましい。デジタルの時代に対抗するかのような  
彼らの健やかなルーツロックは、心身を元気にしてくれる。2017  
作。Freeman)
- \*JACK GRELL:Got Dressed Up To Be Let Down A  
(聴くなり馴染んで、すぐに和んでしまった、まるで 70 年代の緩く  
て人なつつこい唄たち。ヴォーカルの感じは John Prine っぽい  
が、Michael Hurley のような、とぼけた悠長さもあったり、Jesse  
Colin Young と彼の仲間達が立ち上げたラクーン・レコード一派  
の音楽のような 70 年代の西海岸田舎志向カントリー・ロック風の  
んびり感もあったりで、個人的に全くの「好み」。演奏は無名のミ  
ュージシャンばかりのカントリー・ロック・バンド編成で、演奏の  
緩さも魅力。心も体もニコニコ保証。2016 作。Big Muddy)
- \*STEINAR ALBRIGTSEN & TOM PACHECO:Big Storm Comin' C  
(在庫一枚。1993 作。Rownd Tower Music)
- \*STEINAR ALBRIGTSEN & TOM PACHECO:Nobodies B  
(在庫一枚。CD-R。2002 年。Norske Gram)
- \*MICHAEL STANLEY:The Ride(2013 作。Line Level) A
- \*TOM RUSSELL:Box Of Visions A  
(在庫一枚。在庫期間が長いので開封検品してお送りします。1993  
作。Stoney Plain)
- \*TONY JOE WHITE:Deep Cuts B  
(南部男 Tony Joe の最深部から生まれた南部ロック。2008 作。  
Munich)
- \*DANIEL MARKHAM:Disintegrator a  
(Terry Allen や Flatlanders タイプとの紹介を見て、興味を持った  
テキサスの若き SSW の Daniel Markham の新作。期待した兩大物の  
土臭さや泥臭さは薄い、それよりも R. E. M. タイプの西海岸志向  
のビターズウィートなルーツロックを若者らしく、かっこよくガ  
ンガン聴かせていて、いやはや圧巻。Daniel 自身の唄も今が旬の  
夢の輝きを放っていて、一曲一曲がこだわりの重厚なルーツロッ  
ク・サウンドと共に、聴き応えたっぷり。不思議と曲が印象的で、  
ふとしたときに頭の中で彼のうたが鳴っている。2016 作。簡易紙  
ジャケット)
- \*THE STATESBORO REVUE:Ramble On Privilege Creek B

(Statesboro Revue は Stewart Mann の南部ロッカーの貫禄たっぷりなヴォーカルをフィーチャーしたルーツロック・バンド。彼らのロックは、70年代の南部志向、特に Capricorn 産のアメリカン・ロックの匂いが充満。無骨というか、荒削りというか、骨太なロックを体現していて、しかも Stewart の入魂のヴォーカルと相まって、聴き応え十分。すべてが70年代のバンドがひょっこり現代に姿を現わしたかのような「音」だ。2013 作。Blue Rose)

- \*MUSTARD'S RETREAT: 5 Miles Or 50,000 Years A  
(1970年代から活動する二人組 {David Tamulevich & Michael Hough} の1990年のライブで発売は1993年作。本作は約半数が二人の心温まるオリジナル曲で、米国フォーク流のストーリーテリングな唄の世界を楽しませる。全14曲。1993作。Mustard's Retreat / 発売年の古いCDですので、検盤をしてお送りします)
- \*PROFESSOR LOUIE AND THE CROWMATIX: Wings On Fire a  
(The Band のロック・スピリットを受け継ぐウッドストックのロック・バンドの本作は Rick Danko と Levon Helm に捧げられたもので、そのスピリットは一段と高潔。彼らのロックは Levon Helm のスタイルを基本にニューオーリンズ色やロック色を濃くしたもので、そのエネルギーは熱い。ゲスト: John Platania, Michael Falzarano。2012 作。Woodstock)
- \*RICHARD DOBSON: Here In The Garden ¥1500  
(Townes Van Zandt や Guy Clark と共にテキサスのフォーク・シーンを引っ張ってきた Richard Dobson の六枚目。本作は Richard が1999年にトイレットツアーした時に組んだバンドのリーダーの Thomm Jutz をギターと共同プロデューサーで迎えて制作したアルバム。本作は、うたうこと、バンド仲間と音楽することを楽しむかのように、ゆったりとロッキン・カントリーしていて、快適。2013 作。Brambus)
- \*MIKE LAUREANNO: Pushing Back Wintertime B  
(Mike Laureanno は、今は亡き Jack Hardy のハイパートのヴォーカル・ハーモニーのシンガーとして、かれこれ12年間、Jack Hardy と活動を共にしてきた SSW。Jack に較べ、Mike の声はやや高めなのだが、押し殺したようなかすれた声まで似ているのだから、Mike は Jack から唄の心を学んだようだ。2013 作。Mike Laureanno)
- \*KEITH SYKES: It's About Time (1993 作。Oh Boy) A
- \*TOM RUSH: Celebrates 50 Years Of Music D  
(CD+DVDセット。Tom Rush の音楽人生50周年記念のライヴ。録音は2012年12月28日。DVDを見た。ゲスト {David Bromberg, Jonathan Edwards, Buskin&Batteau, Dom Flemons} 全員集合のもと、Tom Rush の唄 "Hot Tonight" で幕開けした後、ゲストの唄が7曲。Tom の出番はその後、8曲。ひょいっと70年代にタイムスリップ。映像で見る Tom は現役ハリハリ印象。ボーナスにはインタビュー、リハーサル風景そして David Bromberg の "Tongue" 他4曲がライヴで収録されている。CDはDVD収録曲16トラックから13トラックを収録。2013 作。Appleseed)
- \*US RAILS: Heartbreak Superstar A  
(Tom Gillam, Ben Arnold, Scott Bricklin, Matt Muir, Joseph Parsons の誰もがヴォーカルを担う今日のアメリカン・ロック・シーンで、最も愛すべきバンドのひとつ、US Rail の新作。70年代の主に西海岸のロック・

バンドが保持していたアメリカン・ロックの土臭さや泥臭さを濃縮したロックは、昔どこかで聴いたことがあるようなヴォーカルやサウンドで、体にすこぶる美味しい。バンドの連中皆が、昔のロックに夢を馳せて、夢を追っかけてロックしているような素敵なロックだ。2013 作。Blue Rose)

\*THE DIRTY GUV' NAHS

:Somewhere Beneath These Southern Skies A

(ナッシュビルのがツツあるルーツ・ロック・バンド。本作は3枚目。ナッシュビルと言えば、昔はカントリーのメッカだったが、彼らのロックは南部っぽくて結構気骨があって、真にクワなロックを体現する。リト・ヴォーカルの James Trimble の、アメリカン・ロック魂のあるソウルフルなヴォーカルは、骨太なバンド・サウンドと一体となって凄いインパクトがある。Levon Helm Band との共演、そして Levon Helm のスタジオでの録音経験もあるそうだ。ラストの“One Dance Left”では、Levon Helm っぽいヴォーカルを振り絞ってもいる。2013 作。Blue Rose)

\*I SEE HAWKS IN L. A.:Mystery Drug A

(ヘンなグループ名。総勢8名編成のこのバンドは、1999年にLAで結成されたという。バンド編成はアルバムを出すごとに変わっていて、以前のアルバムには Chris Hillman も一員だったことも。唄も音楽も、まるで昔の西海岸の自然派カントリー系ロック達のように大らか。音楽を楽しむ空気が伝わってくる。2013 作。Blue Rose)

\*ANDREW CALHOUN:Living Room a

(本作で聴く Andrew の唄は、唄に揺ぎがなく、大きな優しさのようなものが感じられて、Andrew の SSW としての成長というか、円熟味が感じられるもの。自室でアコースティック・ギターを爪弾き、リラックスしてうたう Andrew の数々は、心穏やかにする。w. Casey Calhoun {Andrew の娘さん。素直な唄が気持ち良い}、Tracy Grammer , Jenna Rawling, etc. 2013 作。Waterbug)

\*AD VANDERVEEN:Driven By A Dream B

(Iain Matthews とのデュオ“Iain Ad Venture”の Ad Vanderveen の本作はところどころ Neil Young with Crazy Horse をもホツさせる思いっきりルーツ回帰&若かりし夢回帰の見事なアメリカン・ルーツ・ロック。至福保証。2012 作。Blue Rose)

\*MARK DVORAK:Time Ain't Got Nothin' On Me a

(フォーク・ギター、ブルース・ギターのギター演奏にも定評のある M. Dvorak だが、曲調により様々な表情を見せる鮮やかなギターの伴奏に乗ってうたわれる彼の唄は体の芯から暖まる優しい眼差しの穏やかで優しい唄。ギターのメリハリがしっかりしているせいか、彼の穏やかな唄の穏やかさが引き立つ印象で、ふわふわと極楽な気分になる。ゲスト: Michael Smith. 2011 作。Waterbug)

\*LONG GONE “Utah Remembers Bruce “Utah” Phillips a

(70年~80年代、Utah Phillips 作の唄をうたう SSW が本当に多かった。本作は Utah の唄に影響を受けたという SSW の Kate MacLeod が Utah の息子の Duncan の協力を得て制作した Utahソング集。Philo が存在していたら、Philo が真っ先に企画しそうなアルバムだ。トラックの語りと一曲グループの唄以外の16曲は全て Utah の唄を愛する SSW によるギター等の弾き{奏き}語り。Kate MacLeod 以外は初耳の SSW ば

- かりなのだが、一曲一曲の「唄」が瑞々しく新鮮。2011 作。Waterbug)
- \*MAD BUFFALO:Red and Blue a  
 (カントリー・ロックは不滅を実感させるナッシュビルナッシュビルの SSW の Randy Riviere がヴォーカルの Mad Buffalo。カントリー・ロックのスタイルだが、一つ一つの唄は Randy の SSW としての持ち味が出ていて、むしろその各曲の個性がカントリー・ロック・スタイルの音作りをどこかカントリー・マンのロマンっぽい深みのあるものにしていて、Randy の唄の味わいも深まっている。w. Reggie Young, Chad Cromwel {Neil Young Band}, etc. Mad Buffalo)
- \*RANDY BURNS:The Simple Things a  
 (昔のままの瑞々しい 2008 年作。CD-R。自主制作盤)
- \*CARTER BROTHERS:The Road To Roosky a  
 (これは気合の入ったブルグラス系カントリー・ロック。カーター・ファミリーの家系の Tim&Danny 兄弟の本作はカントリー/ルーツ・ロックの深さが違う。骨太のカントリー・ロック。w. Sam Bush, Tim O' Brien, Ferrell Stowe。2011 作。Compass)
- \*ERIC ANDERSEN:Blue Rain C  
 (E. Andersen の本作は闇の中で直向きでブルかつブルス色濃厚なルウエーでの 2006 年のライヴ。本作の彼は何かに取り憑かれたように凄い。2006 作。ルウエー-Blue Mood)
- \*ERIC ANDERSEN:Ghosts Upon The Road A  
 (88 作。カタ Alert Music)
- \*BILLY C. FARLOW:You Better Run a  
 (元 Commander Cody&His Lost Planet Airmen の Billy の本作は重厚な南部ロック。w. Mary-Ann Brandon, Fred James, Jeff Davis, Mark Horn。2011 作。トイ SPV)
- \*GREG BROWN:Freak Flag A  
 (ブルス、カントリー、フォーク等アメリカン・ミュージックの要素混在で、G. Brown 印の煮込み味 SSW アルバムを創作し続けて彼だが、本作も同じ。この旨みある味わいは彼にしか出せない。w. Bo Ramsey, Mark Knopfler, Richard Bennett, David Mansfield, etc. 2011 作。Yep Roc)
- \*GREG BROWN:Dream City B  
 (副題“Essential Recordings Vol. 2, 1997 - 2006”。1997 - 2006 の間収録の Red House と Trailer の音源からの 16 曲と未発表音源からの 4 曲の二枚組。2009 作。Red House)
- \*AZTEC TWO-STEP:Days Of Horses a  
 (初めて聴いた時、耳を疑った。Rex Fowler&Neal Shulman の Aztec の唄は彼らの 72 年のデビュー作と変わりなく、深緑の若葉のように清々しい。二人によるヴォーカル・ハーモニーの初々しさは彼らならではのもの。2004 年のコピー・ライト。CD-R。Red Engine)
- \*RICHIE FURAY:I Am Sure a  
 (Poco/Richie Furay ファンだったら“The Heartbeat Of Love”と同じくらい歓喜の声を上げること必至のコピー・ライトが 2005 年の最高にご機嫌な Richie のソロ。共演者は Chris Hillman, Dan Dugmore, Jimmy Ibbotson, Bob Carpenter, Jeff Hanna, Michael Rhodes, etc. もうこれは出来すぎなくらいな Richie がリード・ヴォーカルの Poco 風カントリー・ロック。全 13 曲。ItsAboutMusic.com)
- \*JAMES McMURTRY:Childish Things a



- (昨今の Ray Wylie Hubbardクラスの泥臭く、ずっしり重みのあるアメリカン・ロック。ヴォーカルもサントも地鳴りがするほど鈍く唸りを立て凄みを放つ凄いいっただ。2005 作。Lightning Rod)
- \*STEVE EARLE: Washington Square Serenade B  
(CD と DVD のセットの限定盤。DVD は国内プレイヤーで再生可。S. Earle の本作はまるでデヴィアス・フィルムの霧囲みの、初期 Dylan やそれを通り越してアパラチアン・フォーク的土臭さに到達したりもする文字通りアメリカン・ミュージックの根っ子回帰志向アルバム。DVD はニューヨークのスタジオ・ライヴ 3 曲他で 37 分 24 秒。2007 作。New West)
- \*PONDEROSA: Moonlight Revival A  
(南部アトランタから颯爽とデビューした 4 人組ロック・バンドの Ponderosa は南部魂を持った、若いながら、今どき珍しく骨のあるアメリカン・ロック・バンドだ。南部系アメリカン・ロック・バンドのヴォーカルとしては理想的な Kalen Nash [男性] のソウルフルなヴォーカルに粘っこいエレキ・ギターと重厚なロックはもう抜群。2011 作。New West)
- \*KIP BOARDMAN: The Long Weight a  
(音楽的には Harry Nilsson が近いだろうか。唄が自由に散歩でもするかのようにな軽やかで、豊かなイメージが広がる。ヴォーカルは Steve Forbert っぽい。Gia Ciambotti, Claire Holley, Kristin Mooney の女性バックিং・ヴォーカルを含め、バック・バンドのサントがオール・アメリカン・ミュージックのスケールで巧み、かつ自在で見事。2010 作。Ridisculous)
- \*STORYHILL: Shade Of The Tree a  
(自主制作で 12 枚のアルバムを発表し、2007 年に Red House から "Storyhill" を発売し、多くの SSWファンを虜にした Chris Cunningham & John Hermanson のヴォーカル・デュオ "Storyhill" の本作は、SSW の唄心というか良心が詰まった湧き水のごとき清き逸品。2010 作。Red House)
- \*JIM POST: Reach Out Together A  
(白髪の爺さんになった Jim の声は軽やかで若々しい。Jim の飄々とした唄と Moby Grape の Jerry Miller の歯切れの良いギター、そして Randy Sabien のフィドルと Andy Steil のスライド・ギターやハンゾーはぴったり噛み合っていて、抜ける青空のような屈託のない Jim の唄は最高に輝いている。2009 作。Jim Post)
- \*GEORGE ENSLE: Build A Bridge A  
(Townes Van Zandt が「George Ensle は最も影響力のある尊敬すべき SSW の一人」と賞賛するテキサスのヴェテラン SSW の George の唄はどことなく Jerry Jeff Walker の風合いなのだが、精神が自由というか飄々としていて、唄に爽やかさが感じられる。Bill Staines 的な風合いも。SSWファンの愛聴盤になること請け合い。2008 作。Berkalin)
- \*MARK STUART: Songs From A Corner Stage (99 作。Gearle) A
- \*BUTCH HANCOCK: War And Peace A  
(初期 Dylan を想起させる彼本来の粗い肌触りの引きずるような唄は流石。抜群の最近作。w. Joe Ely, Jimmie Dale Gilmore, Rob Gjarsoe。2006 作。Two Roads)
- \*ERIC TAYLOR: The Kerrville Tapes a  
(Kerrville Folk Fes でのライヴからの全 10 曲。全曲ギターの弾き語り

だが、鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏とまるでスタジオ録音のような唄うことに集中した Eric ならではの情景描写が見事な心痺れる叙情的な唄の数々。絶品。2003 作。Silverwolf)

\*THE NORMAN FISHINTACKLE CHOIR

:One Kind Of Bait In The Bucket A

(72 年作“Out The Window”と 73 年作“Shimmy She Roll, Shimmy She Shake”の Jim Pulte がヴォーカルのバンド。昨今のスワップ系アルバムでは最もスワップ色が濃い。ファン感動保証。2007 作。Windstorm)

\*DANNY FLOWERS:Tools For The Soul A

(本作はカントリー調、初期 Ry Cooder 調、南部ロック調そしてゴスペル調 [結構 Leon Russell っぽい] 等、どれも唄も音楽の魂に触れるもので、一曲一曲アメリカン・ルーツ色が濃厚で土臭くかつ泥臭い。w. Emmylou Harris, John Cowan, Steve Mackay, etc. 2007 作。Brash Music)

\*JIMMY HALL:Rendezvous With The Blues A

(Johnny Sandlin のプロデュースでアラバマ録音の Wet Willie の J. Hall の本作はディープ・サウスな本仕込みブルース。David Hood, Clayton Ivey, Johnny Sandlin, Jack Pearson, Bill Stewart 等による伴奏はデルタブルース色濃厚な南部ロック。3ボーナス・トラック付で計 14トラック。2006 作。Rockin' Camel)

\*TOM MAY:Blue Roads, Red Wine a

(かれこれ 35 年以上のキャリアのヴェトナムSSW の T. May の本作はうたう心優しい旅人そのままに旅先の思い出の唄や友愛の唄や夢や希望の唄などがそっと優しくうたわれている。Tom のヴォーカルはそっと包み込むように優しい。ヒドゥン・トラックが 1 曲隠されている。ほほえみの一曲。2008 作。Waterbug)

\*DAVID MALLETT:Midnight On The Water a

(2005 年夏のライブ。“Pennsylvania Sunrise”時代を思い起こさせる唄声に感激。2006 作。North Road)

\*A. J. ROACH:Revelation ¥1500

(ヴァージニアの山奥育ちで伝統音楽を聴き、若い頃古いアパールの聖歌をうたっていたという A. J. だが、彼の唄の芯の部分でカントリーやブルース等白人と黒人のルーツの音楽がミックスされた音楽性を保持し、伝統的聖歌やゴスペルの祈りから発した柔軟で逞しい意志のようなものが感じられる。Great!2007 作。Waterbug)

\*TINSLEY ELLIS:Moment Of Truth A

(南部ブルース・ロックの大御所登場。いやはや鳥肌立つブルース・ロックが次から次。エレキギターをかき鳴らし、大地揺らすブルース・ロックを叩き出す。全てが骨太で肉感的。w. Kevin McKendree, The Devil One, Jeff Burch, Mike Lowry, Michelle Malone. 2007 作。Alligator)

\*ALASTAIR MOOCK:Fortune Street a

(通好みのスルメ味 SSW アルバム。主に鮮やかなギターの伴奏でダミ声でうたう Alastair のざらっとした感触の唄は静かなインパクトがある。Chris Smither の“Train Home”のプロデューサーの David Goodrich のプロデュースは Alasdair の個性を際立たせていて見事。Chris Smither ファン是非。2007 作。オランダ CoraZong)

\*RAMSAY MIDWOOD

- : Popular Delusions&The Madness Of Cows a  
 (J. J. Cale 風いぶし銀南部ロック。Produced by Don Heffington{トランスも}。w. Greg Leisz, Randy Weeks, Jake Labotz, David Jackson, etc. 2006 作。Farmwire)
- \*DAN HICKS&THE HOT LICKS:Featuring An All-star Cast Of Friends ¥2780  
 (CD と DVD のセット。CD、DVD とも Dan Hicks の 60 歳誕生日お祝いコンサートのライブ。D. Hicks と縁のあるミュージシャンやシンガー-総出演の素晴らしいライブ。DVD は PAL でコンサートの前のフィルムから笑わせる。至福保証。CD は全 13 曲で DVD は 2 曲多い 15 曲。2003 作。Surfdog)
- \*MICHAEL DE JONG:The Great Illusion C  
 (フランス人 SSW{だが音楽は米国 SSW 系}の Michael{唄は英語}の本作は全曲ギター-の弾き語り。一見 Bob Dylan の初期のようなシンプルな唄なのだが、心からの魂震わす唄は素晴らしい。SSW ファン必聴。2006 作。MW)
- \*MICHAEL DE JONG:Last Chance Romance C  
 (人のロマンス等がとろけるように深く静かな空気の中で噛み締めるようにゆったりと唄われる。彼独特な独り言そして夢想の世界。2002 作。オランダ。Munich)
- \*TONY ARATA:Such Is Life A  
 (CD-R。Tony はじっくり練り上げられた極上の唄を響きのいいアコースティック-ギターをお伴にゆったり噛み締めるように唄う。シンプルながら唄が深い。理想的 SSWアルバム。w. Dan Dugmore, Pat Alger, Lee Roy Parnell, etc. 2005 作。Little Tybee)
- \*TONY ARATA:Way Back When A  
 (Tony の唄は嬉しくなるほど心優しく心が澄んだ唄、そして音も清々しくてスイートなカントリー-ロック調。丁寧な音作りを含め、一曲一曲に彼の温厚さと誠実さがきっちり込められていて、心のこもった手作りな作品として全てが温かい。70 年代の良質の SSWアルバムと同じ感触。2000 作。Little Tybee)
- \*DAVID MASSENGILL:The Return ¥1050  
 (倉庫の隅で発見。95 作。Plump)
- \*RICHARD MEYER:The Good Life! ¥1050  
 (倉庫の隅で発見。92 作。Shanachie)
- \*TOM OVANS:Tale From The Underground(Great!95 作。NSR) A
- \*ROD MacDONALD:A Tale Of Two Americas A  
 (子の親になった Rod の「唄いたいこと山ほどあり」の思いがガングン伝わってくるフォーク-シンガー-の原点回帰の見事なアメリカン-フォーク。2005 作。Wild River)
- \*MARK ERELLI:Hillbilly Piggrim A  
 (M. Erelli の本作は古きカントリー-ミュージック回帰。Mark のカントリー-は懐古趣味を超えて、今の新しいアメリカの音楽としての勢いがある。音楽スタイルは古いが音楽新鮮野菜。ゲスト:Erin McKeown。2005 作。Signature)
- \*JEFF WILKINSON:Landscapes C  
 (見聞きした不思議な光景や事件等をざっらとした感触の土臭いサウンドでどっぷり自分のペースで唄う。一曲一曲の自作の唄がタイトル通

り Jeff の見聞きし、感じた「風景」のように唄として収まっている。  
全てが Jeff の時間の流れなのがいい。(Brambus)

- \*BART DAVENPORT: Maroon Cocoon a  
(子供の頃、ヒッピーだった両親のレコード・コレクションを聴き漁ったという彼だが、音楽性は70年代の夢想的フリッシュ・フォークあるいはソフト・ロック的感触で輝くギターを爪弾き、夢見心地な唄をゆったり描くように唄う。2005作。Antenna Farm)
- \*DAVID BALL: Freewheeler A  
(タイトル曲は Jesse Winchester のナンバーだが、このカントリー系 SSW の D. Ball の本作はヴォーカルといいサウンドといいカントリー度が深い。ヴォーカルもサウンドも泥臭くエレクトリック。w. Mike Johnson, Kenny Malone, Milton Sledge, Dan Frizzell, etc. 2004作。Acan)
- \*FRED KOLLER: No Song Left To Sell A  
(どっしりとした SSW アルバムの傑作。Shel Silverstein との共作集で全14曲。2001作。Gadfly)
- \*ERIC TAYLOR: The Kerrville Tapes A  
(Kerrville Folk Festival のライヴ。2003作。Silverwolf)
- \*J. T. VAN ZANDT: WRECKS BELL B  
: Live At The Old Quarter Acoustic Cafe  
(マンス・ヴァン・ザントの息子 J. T. が8曲と Wrecks Bell が9曲の全17曲入り。2004作。Romeo)
- \*THE WOODYS: Teardrops&Diamonds A  
(Byrds~Every Brothers~Gram Parsons 的全アメリカン・ミュージック・ファンの琴線に触れる懐古&郷愁ムードとロックする快樂さと恋する思い等がチャームに表出したほんわか気持ちのいいカントリー・ロック。w. Al Perkins, Dave Pomeroy, Cam King, Tammy Rogers, Steve Conn, Billy Block, etc. 2001作。Dynamike)
- \*CELEBRATION! "Highlights From The 40th Philadelphia Folk Festival" A  
(2001年8月24~26日に開かれたフェスのライヴ。全13曲。出演者は収録順に Arlo Guthrie, Laura Love Band, Sonia Solas, David Bromberg, Janis Ian, Richie Havens {All Along The Watchtower}, Tom Paxton&Anne Hills, Chris Smither, Jimmy Johnson, Laurie Lewis, Tom Rush {Driving Wheel!}, Judy Collins。2002作。Sliced Bread)
- \*RECKLESS JOHNNY WALES: It's Not About The Money A  
(ユーモア、皮肉、悲哀等など人生のひきこもごもをペーパズ漂う唄でうたう凄く個性的で魅力的な SSW。Randy Newman に似てるが、Recklessの方が音楽的に開放感があって豊か。w. Jeff "Skunk" Baxter, Clive Gregson, Dave Pomeroy, Brian Willoughby, Cathryn Craig, Pat McInerney, Michael Snow, etc. 2003作。Villa Villa Music)
- \*SAYLOR WHITE: Graven Image B  
(風貌は Willie Nelson 風。ヴォーカルは Jerry Jeff 風。どことなく時代遅れなおっとりした唄と土臭いサウンドはほのぼのとさせ、またしみじみといい気分させる。ひと言ひと言思い出に浸り、2003作。Last Call)

- \*BILLY JOE SHAVER:Freedom Child A  
 (オールド・タイム・フィーリングな Billy Joe の本作は自身のルーツ回帰の懐古趣味的な一方で、古いカントリーやブルース調の節での Billy のヴォーカルは古臭くも輝いている。2003 作。Compadre)
- \*DAVE SCHRAMN:Hammer And Nail ¥1980  
 (内省的 SSW アルバムの傑作。99 作。ドゥイ Blue Rose)
- \*SHAWN SAHM:Shawn Sahn A  
 (Doug Sahn の息子 Shawn の Doug Sahn そっくり? なソニリの本作。すっかりサー・ダグラス・クインテット風なテキサス・メックスとハスキーで甘い Shawn のヴォーカルは理想のテキサス音楽を体現。ゲスト: Doug Sahn, Augie Meyers, Flaco Jimenez。2002 作。イギリス Evangeline)
- \*PONTY BONE:Fantasize A  
 (テキサスのドクター・ジョンとも言うか、縦揺れ、横揺れたつぷりリスミカル。Ponty のおおらかな太いヴォーカルもいい、いい。ようこそ! ミラクルな Ponty Bone のテキサス・メックス・ショーの世界へ。2002 作。Loudhouse)
- \*DON WILLIAMS:Silver Turns To Gold A  
 (いわば心の名曲集。SSW ファン向けのいい唄ばかり。終始心和む。w. Sam Bush, Kenny Malone, Tim Williams, Charles Cochran, etc. 2002 作。RMG)
- \*DON MICHAEL SAMPSON:Old Wood Bridge A  
 (2 枚組 CD-R。あの“Americansongs”の Don の悠々自適の自主制作盤。各種愛用ギターのアタックの強い巧みなギターを伴奏にした Don の唄は彼のキャリアがしっかりと熟成されたしたたかでしなやかなもの。2001 作。Red Rose)
- \*JEFF TARLTON:Astral Years a  
 (米国人 SSW だが資質は英国人 SSW 的。90 年代初めに故郷を離れ、録音時はベルリンでストリート・ミュージシャン。マノリックで宇宙的音楽は Nick Drake や Tim Buckley を思い出させる。全 20 曲の長い旅。97 作。Delerium)
- \*JEFF TARLTON:Dragin Spring a  
 (前作の延長線上の 2 枚目。少し型にはまった分音楽的。やはり夢の異次元の世界へ。ベルリンでの録音。2000 作。Delerium)
- \*TONY JOE WHITE:One Hot July A  
 (スワップな煮込み味。T. J. White ここに在り! 2000 作。Hip-0)
- \*ALAN GERBER:The Boogie Man(1999 作。Mugwamp) a
- \*CALVIN RUSSELL:Crossroad B  
 (ギター弾き語りライブ。ごっつい唄が全 16 曲。“想い”が乗り移った粗いギターと“想い”がこぼれんばかりの入魂の唄に釘づけ。2000 作。Last Call)
- \*CALVIN RUSSELL:Sam B  
 (テキサスのヴォーテラン SSW の 8 枚目。プロデューサーが James Luther Dickinson で、バックには Roger Hawkins, David Hood, Brenda Patterson の面々。ロングセラー。99 作。Last Call)
- \*TOM ROZNOWSKI:Voice Beyond The Hill A  
 (T. Roznowski の温厚な人柄が滲み出た心優しい SSW アルバム。70 年代っぽい味と心あるカントリー・ロックが Tom の持ち味を最高に高めている。w. Jon Randall, Rob Ickles, James Talley, Brent Truit, Richard

- McLaurin, etc. おやじ感涙保証。2001 作。Blazing Stump)
- \*HUNTER MOORE: Conversations B  
 (ナッシュヴィルのSSW、H. Mooreの本作はChris Donohue{ベース}, Phil Madeira[エレクトリック・ギター]、Steve Hindalong{ハカッション}の小編成ながらソリッドかつタイトなルーツ・ロック。Hunterの乾いた粗野なヴォーカルか何とも言えず魅力。2001 作。Brambus)
- \*HUNTER MOORE: Delta Moon B  
 (その昔のベスト・セラー。やや南部寄りかつ繊細さも持ち合わせた本作は今聴いても新鮮。SSW名盤。w. Kenny Malone, Bob Wray, Russ Pahl, etc. 96 作。Brambus)
- \*JERRY JEFF WALKER: Mr. Bojungles C  
 (2曲のボーナス・トラック付の計12曲入。68/93 作。Rhino)
- \*TAJ MAHAL&THE HULA BLUES BAND: Hanapepe Dream B  
 (西アフリカのお次はハワイ!? Tajの渋いヴォーカルもバンドの音楽もユルユルで心地よいロール感があって、ご機嫌。Tajの各種ギターはもちろんのことウクレレやスティール・ギターも最高の響き。夢心地保証。2001 作。ドット&M)
- \*MAIN STAGE LIVE "Falcon Ridge Folk Festival" A  
 (Kennedys, Dar Williams, Greg Brown, Richard Shindell, Nields, Patty Larkin, Peter Mulvey, Vance Gilbert and more。全14曲。99 作。Signature)
- \*TOM MITCHELL: When The Moon Is Right ¥1000  
 (時折、Bob Carpenterをホフツさせる世界をも垣間見せる。SSWファン静かなる衝撃作。96 作。Truesongs)
- \*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS: La Terre Commune A  
 (異色のデュオ。それぞれの口の持ち味とデュエットがフランスよく収められた友情盤。2001 作。ドットBlue Rose)
- \*CHRIS SMITHER: Live As I'll Ever Be B  
 (何も言うことなし、C. Smitherの持ち味そのままが発揮されたギター弾き語りライブ。録音は96-99年。全16曲。Hightone)
- \*DAVID MUNYON: Acrylic Teepees B  
 (いつも夢想的で透明なD. Munyonの唄の世界。w. Al Perkins, Dave Pomeroy, Craig Krampf。珠玉の逸品。96 作。Glitterhouse)
- \*DAVID MUNYON: Slim Possibility B  
 (ある種神聖とも形容できるD. Munyon独特な唄の世界だ。非の打ち所のない潔癖さだ。理想のSSWアルバム。96 作。Stockfish))
- \*JEB LOY NICHOLS: Just What Time It Is a  
 (ベアーズ・ギル"録音の傑作"Lovers Knot"に次ぐ待望のNew。しばし南部&トロピカル・フィーリングのある本作に夢心地...。知性と感性と職人ワグと三拍子揃った傑作。2000 作。Rough Trade)
- \*JERRY JEFF WALKER: Night After Night D
- \*BUTCH HANCOCK・JIMMIE DALE GILMORE: Two Roads a
- \*MARK STUART: Songs From A Corner Stage (1999 作。Gearle) a

**[CD/USA {female}]**

- \*VIVIAN LEVA: Time Is Everything (CD) A  
 (LP) ¥2890

(父親はマルチ楽器奏者で母親は Hazel Dickens & Alice Gerrard と共演経験のあるアパラチアン・シンガーというアパラチアの若き女性 SSW の Vivian Leva のデビュー作。Vivian 嬢の本作は、アパラチアン・トラッドを志向した音楽ではない。Kate Wolf や初期の Emmylou Harris の、さらにルーツの古いカントリーの匂いのする自然体の、すこぶる心地よい SSW アルバム。Vivian はそんな古くさいアメリカン・サウンドと音楽スタイルの音楽に身を預け、声を裏返らせて、時に快活に、時に優しく語りかけるようにうたう。Vivian の声も音楽パートナーの Riley Calcagno のバンジョー & ハーモニーほかフィドルやスティール・ギターなどの音色もアパラチアの森に優しく吹く風のように清々しく心地よく、体に美味しい。アパラチアから古くさくも清々しい女性 SSW アルバム。2018 作。Free Dirt)

※CD か LP かをお知らせ下さい。

\*CIARA SIDINE: Unbroken Line B

(Ciara はアイルランドの女性 SSW だが、タイプは米国ルーツロック志向なので、ここで。本作は六年振りの新作で二枚目だそうだが、Emmylou Harris や Gillian Welch などの米国ルーツの味わいを極めたヴェテラン・シンガーに引けを取らない唄の味わいは、心揺さぶるほど格別。彼女の唄のベースには米国のフォークやブルースのプリミティヴな味わいが確かにあって、その上で豊かなオリジナルなほろ酔いする愁い感のある唄を聴かせる。Ciara との共同プロデューサーは Mary Coughlan や Sinead O' Connor のプロデューサーでギタリストの Conor Brady。彼のほか Van Morrison Band のキーボード奏者の Justin Carroll や Josh Ritter 等のレコーディングに参加のドラマーの Dave Hingerty や David Gray Band のベース奏者の Robbie Malone などアイルランドきってのツワモノ達がばっちりバックアップ。2017 作。Music&Words)

\*LAURA CANTRELL: Kitty Wells Dresses B

(Laura の 4 枚目に当たる本作は、Laura が子供の頃からのファンというカントリー・シンガーの Kitty Wells のカバー集。スティール・ギターを含めたカントリー・サウンドの全てがハワイ音楽のような清涼感があって、清々しい。2011 作。Shoeshine)

\*BETSE ELLISE: High Moon Order A

(The Wilders のヴォーカル、フィドルの Betse のソロ。13 曲中 7 曲が自作曲で 3 曲が伝統曲。彼女のフィドル演奏はフォークスタイルのオルド・タイム・フィドルだそうで、僕の耳には John Hartford の女性版のように聞こえる。今の世の中にこんな音楽あり?! とってしまうほど、ホームメイドな古臭くて、飄々とした唄と音楽だ。2013 作。Tree Dirt)

\*ALICE GERRARD: Bittersweet A

(かれこれ 40 年以上にわたって、アメリカン・ルーツ音楽の第一線で活動してきた Alice の 10 年ぶりの本作は、全曲自作曲の深い味わいのある素晴らしい SSW/フォーク・アルバム。体の中から湧き上がるようなリラックスした唄は、いぶし銀のアメリカン・ルーツ・サウンドを伴って、ある時は心に沁み、またある時は心を和らげ、またある時は心をほがらかにさせる。いぶし銀のアメリカン・ルーツ音楽の名品だ。w. Laurie Lewis, Stuart Duncan,

Bob Ickes, Bryan Sutton, Todd Phillips, Tom Rozum, etc.

2013 作。Sprouce And Maple Music)

\*CATHRYN CRAIG & BRIAN WILLOUGHBY:Real World a

(ナッシュビルの女性 SSW の C. Craig とブリティッシュ・フォーク・グループのストロークスのギター奏者の Brian Willoughby のデュオによる本作は、Brian の美しいブリティッシュ・フォーク・ギターと Cathryn の大人のルン調の穏やかな唄とが何とも心地よい“Real World”ではなく、“Dreamy World”。ずっと聴いていたい気分。2013 作。Cabritunes)

\*ANNIE KEATING:Water Tower View a

(ひと味違う凝ったルーツ・ロックは本醸造ルーツ・ロック・ファンを唸らせる。こんなにセクスの良いかしたルーツ・ロックは滅多にお耳にかかれない。Annie の唄は、セクス抜群の大人のルーツ・ロック・サウンドと共に心と体に美味しい。w. Bo Ramsey, Jason Mercer, Chris Benelli, Chris Tarrow, John Caban, etc. 2010 作。

Annie Keating)

\*COSY SHERIDAN:The Horse King a

(ヴァン女性 SSW の Cosy の本作はひと味違う。様々なサウンドを創り出すアコースティック・ギターの妙技に驚かせられながら、Cosy の唄の世界へとご機嫌に誘われてゆく。音楽性の基本は Good & Old Time なアメリカ・ミュージック。巧みなワザに裏打ちされた音楽は豊かで柔らか。心晴れ晴れする爽快な SSW アルバムだ。w. David Surette, Kent Allyn, Penny Nichols, TR Ritchie。2011 作。Waterbug)

\*CAROLINE HERRING:Camilla A

(Caroline の音楽性はフォーク/ルーツ・ロック系だが、その中身は自分の物語を含めて、アメリカの物語。Lucinda Williams 級。ゲスト:Jackie Oates, Mary Chapin Carpenter, Aoife O'Donovan, Kathryn Roberts。最後の曲はロバート・バーンスの「蛍の光」だが、Caroline は自作のメロディに乗せてうたっている。2012 作。Signature Sound)

\*JANIVA MAGNESS:Stronger For It A

(Janiva の渾身の唄とバンドの南部ロックが、ガツと組み合って、感動の嵐。2012 作。Alligator)

\*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together a

(ナッシュビルのヴァン SSW & ギタリストの Fred James とナッシュビルのスワンプ・クインの Mary-Ann の共演盤。Fred の SSW 的資質と Mary-Ann の南部ブルース&R&B 資質のぶつかり合いは Fred が Mary-Ann の大きな土俵の上で、自身のエレキギターを含め、ガツあるヴォーカルで精一杯対抗する風ながら、Fred は +α の南部っぽい底力を見せ付けている。Mary-Ann のヴォーカルは豊潤なヴォーカルで聴き手を圧倒する。2011 作。ドゥイ SPV)

\*WHEN OCTOBER GOES (1991 作。Philo) A

\*NANCI GRIFFITH:Little Love Affairs (1988 作。MCA) A

\*NANCI GRIFFITH:Flyer (1994 作。Elektra) A

\*REBECCA PRONSKY:Viewfinder A

(ブルックリンの女性 SSW の Rebecca の唄は独特。音楽的には Gillian Welch や Eilen Jewell のような古いルーツ・フォークやルーツ・ロック的な志向性を持ちつつ、トゥワニング・ギターの多用に加え、声が豊かで、夢想的で朗々としたヴォーカルなど、彼女独特な唄世界を創作している。都会の



- ビルの一室で、夢想しているかのような音楽。2011 作。Nine Mile)
- \*LIZ MEYER: The Storm A  
 (カントリー・フォークの女王 Liz の本作は昔からの音楽仲間や中堅音楽家の協力を得て実現した夢に描いてきた同窓会音楽。Bela Fleck, Emmylou Harris, Jerry Douglas, Sam Bush, Stuart Duncan, Rob Ickes, Byron House, Glen Duncan, Ron Block, Kenny Malone 他。2005 作。Strangely Country)
- \*CARRIE RODRIGUEZ: She Ain't Me A  
 (Chip Taylor とデュオを組んでいた Carrie の二枚目。本作でデュオとする Lucinda Williams 級。2009 作。Continental Song City)
- \*KRISTA DETOR: Chocolate Paper Suites a  
 (前二作同様、プロデュースは David Weber で、そしてまた前作同様、自身が奏でるピアノの響きが印象的で、時空を超えて、Krista が創作する穏やかで、深く心地よい唄の世界へと運ぶ。Chris Wood, Karine Polwart, Emily Smith, Maura Smiley, Rachel McShane, Malcolm Dalglish, etc. 2010 作。CoraZong)
- \*RACHEL HARRINGTON: The Bootlegge's Daughter A  
 (2008 年作の "City Of Refuge" が好評の Rachel の 2007 年作のデビュー作。Rachel の唄を包む空気は百年前のアメリカ西部、或いはアラバマだったり、今日のルーツ・ロック風だったり、また今日の田舎の SSW 風だったりする。2007 作。Skinnydennis)
- \*LINDA HARGROVE: One Woman's Life A  
 (カントリー・フォーク系のヴァンサン SSW の Linda の本作はヴォーカルも音作りもヴァンサンの風格漂う Great な SSW アルバム。名うての楽士達のバックアップが見事。Linda の揺るぎ無い唄に相応しい演奏で支える楽士は Sam Bush, Kenny Malone, Jeff Davis, Dennis Burnside, Pam Rose, Hoot Hester, etc. 2005 作。Panacea Productions)
- \*KATE McDONNELL: Where The Mangoes Are B  
 (Kate の本作が 4 枚目。Kate ならではの壊れそうで逞しい唄たちだ。Kate は今を唄う吟遊詩人。2005 作。Appleseed)
- \*SUZANNA SPRING: She's Got Your Heart A  
 (本作は敏腕プレイヤーによる奥深くもピリッとカッコいいルーツ・ロックの見事さ中で女性ならではの哀愁や感傷や夢想等の感情が実にいい感じで美味な唄として結実している。カッコいい音の波に乗ってる、って感じだ。2003 作。Suzanna Spring)
- \*CLARE MULDAUR: Bentley Circle ¥700  
 (Geoff&Maria の娘 Clare の 2 枚目。Clare の夢見るような素朴な唄の数々とこれまた夢見るような素朴なギター、チャント、フレイク等の伴奏の音色の心地よさは憎いほどの素敵さ。2003 作。Clare Muldaur)
- \*WENDY BECKERMAN: Mango Moon A  
 (Jack Hardy おかかえのミュージシャンがバックを固めた Wendy の 3 枚目の 96 年作。Wendy の持ち味がシンプルにリカルに表出。唄の自由さと彩りのある素敵な女性 SSW アルバム。Brambus)
- \*FLORAMAY HOLLIDAY: Floramay Holliday B  
 (南カリフォルニアの女性 SSW。Kelly Willis と比較されることの多い SSW だが、Floramay の方がロク的で南部志向。エレキを内にキープした本格

- 的ヴォーカルをテキサスのヴェテラン達が本醸造ロックでサポート。w. Lloyd Maines, John Inmon, Gene Elders, etc. 98 作。Roseneath Music)
- \*ROSALIE SORRELS: No Closing Chord a  
(Malvina Reynoldsソング集。w. Bonnie Raitt, Laurie Lewis, Nina Gerber, Barbara Higbie, etc. 2000 作。Red House)
- \*PEGGY SEEGER: Love Will... Linger On... a  
(副題“Romantic Love Songs”。子守唄のように夢心地な唄達。w. Colum&Nei MacColl, Irene Scott, etc. 2000 作。Appleseed)
- \*KIM RICHEY: Bitter Sweet (97 作。Mercury) A
- \*MARIA MULDAUR: Meet Me At Midnite (1994 作。Black Top) A

### [DVD/CANADA] PAL 2

※PAL 専用 DVDプレイヤー/パソコンで再生可能

- \*NEIL YOUNG: Heart Of Gold D  
(2 枚組。ディスク 1 はドキュメンタリー+ライブ 1 曲で、ディスク 2 は 2005 年ナッシュビルでのライブ。全 19 曲。w. Emmylou Harris, Ben Keith, Spooner Oldham, Karl Himmel, Chad Cromwell, etc. ディスク 2 のライブは一曲一曲が聴き所、見所。2005 年。オランダ。Shangri-la)

### [DVD/CANADA] NTSC all regions

※国内製 DVDプレイヤーで再生可能

- \*LEONARD COHEN: Under Review 1978 - 2006 B  
(カナダを代表する SSW の L. Cohen の多数の希少ライブ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら John Simon, John Lissauer, David Cohen 等 L. Cohen のプロデューサーやジャーナリストがアルバムを追いながら彼の音楽を語るドキュメンタリー-DVD。64 分。2008 作。Sexy International)
- \*RONNIE HAWKINS: Still Alive And Kickin' B  
(The Band の前身 The Hawks のリーダーでカナダのロック界のホスの Ronnie Hawkins の Hawks 時代の貴重ライブ映像や今日のバンドのライブを挟みながら、癌の手術そして快復等 R. Hawkins の普段着の姿と音楽人生が記録された DVD。Robbie Robertson, Kris Kristofferson, クリントン元大統領が R. Hawkins を語る。約 90 分。2004 作。CTV)

### [CD/CANADA]

- \*ERIN COSTELO: Down Below, The Status Quo A  
(米国 Compass からの最新作だが、オリジナル盤は 2016 年にオーストリアのレーベルから発売され、廃盤であるらしいことをネットで知った。カナダで 12 もの賞にノミネートされたという女性 SSW の Erin の本作は、Erin の地元カナダの東端のノヴァスコシアで録音されたものだが、主人公 Erin のソウルフルなヴォーカルと言い、女性バックグラウンド・ヴォーカルを伴ったスタイルと言い、米国南部録音と聞き違える豊穡な南部サウンドと言い、その豊かな米国南部志向の音楽に驚かされる。Erin のヴォーカルは何か余裕綽々なムードなのが、また凄い。おそらく Compass のスタッフも、ぼく同様に本作を通して脈打つ米国南部の音楽スピリットと、それをカナダ人がやってのけていることに「にんまり」したに違いない。

最近 Levon Helm's Midnight Ramble Band と共演したとか。2016 年 /2018 作。Compass)

- \*FRED EAGLESMITH: Standard A  
(愛すべきカナダのヴェテラン SSW の Fred Eaglesmith の愛すべき新作。バンド編成だが、Fred の心はギターを弾き語りしていた時代に初心回帰するように、一心に声をふり絞る。それらの唄は、Roger McGuinn や Willie P. Bennett や Chip Taylor などの唄とイメージが重なる。デジタル音とは無縁な粗いルーツロック・サウンドが、彼の不器用に古いスタイルのままの泥臭くルーズなヴォーカルにバッチリ合っていて、ひとつひとつの唄が心にぐさり。「泥臭くルーズ」だが、唄に一匹老狼 SSW としての魂が宿っている。2016 録音の 2017 作。Fred Eaglesmith)
- \*BLUE RODEO: 1000 Arms B  
(1984 年結成のカナダのヴェテラン・カントリー・ロック・バンドの Blue Rodeo の新作は、西海岸カントリー・ロックの王道を突き進む信じられないほど爽快なカントリー・ロック。現在のメンバーは Greg Keelor {ヴォーカル、ギター}、Jim Cuddy {ヴォーカル、ギター}、Bazil {ベース} のオリジナル・メンバーに Glenn Milchem {ドラムス}、Michael Boguski {キーボード}、Colin Cripps {ギター、ヴォーカル} の六太郎。Poco と Byrds の美味しいところを清々しく受け継いでいて、感涙。彼ら、音楽で青春してますね。2016 作。TeleSoul)
- \*BLACKIE&THE RODEO KING: High Or Hurtin' B  
(Stephen Fearing, Colin Linden, Tom Wilson から成る "Blackie" の 1996 作。True North)
- \*STEPHEN FEARING: That's How I Walk B  
(最強の SSW。S. Fearing の New は、朋友 Colin Linden の強力応援を得、Stephen の感性鋭いシャープな唄が、より深みと味わいをもって心に突き刺さる。w. Colin Linden, Richard Bell, Shawn Colvin, Jonelle Mosser, Ben Riley, etc. 2002 作。True North)
- \*RICHARD NEVILLE: Old Souls a  
(Richard Neville はカナダ東部のラブラドル半島の SSW。ラブラドル半島の人々や文化に触発された自作の唄の数々は、ほっこりしていて、古くからの友の唄を聴くように体にしみわたる。例えば、田舎暮らしをしていて、穏やかになった Gordon Lightfoot のようなイメージの唄。自身のギターの弾き語り+軽やかなカントリー・ロック風サウンドは、彼の温厚な唄とともに何とも心地よい。SingSong)
- \*BONNIE DOBSON: Take Me For A Walk In The Morning Dew a  
(Bonnie Dobson の 2014 作。録音は英国のロンドン。Her Boys と名付けたグループ {B. J. Cole もメンバー} を伴って制作された本作は、衰えを知らぬ歌声と決して懐古趣味的ではないソリッドなアコースティック・フォーク〜フォーク・ロックに現在進行形の今の Bonnie の音楽が瑞々しく表出されている。12 曲目の "Sandy Boys" などは Fairport みたいな気力充実のフォーク・ロック。2014 作。Hornbeam)
- \*IAN TAMBLYN: Side By Each B  
(海の生き物に心を寄せ、旅の思い出を回想する Ian の心の唄は、本作において、一段と穏やか。ギターの美しい響きなど、ふと "High

Winds White Sky”の頃の Bruce Cockburn を思い出した。w. Rebecca Campbell [彼女のほわっとしたハーモニーヴォーカルは Ian の音楽に欠かせなくなっている], Fred Guignon, Pat Maher。2013 作。

North Track)

\*IAN TAMBLYN:Gyre B

(「四つの海岸プロジェクト」は一休み。地球を旅する Ian のその感動の瞬間の心情が一枚の印象的な風景写真のように詩的に詠まれ、うたわれている。本作は W. G. Tamblyn {1923-2009}, Willie P. Bennett {1951-2008}, M/S Explorer {1968-2007} の霊に捧げられている。評価する隙を与えない名作。2009 作。North Track)

\*IAN TAMBLYN:Superior - Spirit And Light B

(本作は四つの海岸プロジェクトの 1 作目で、I. Tamblyn が育ったところであり、音楽の旅のスタート地のスペリオル湖と北西オタワに焦点を当てたもの。本作は青春時代を過ごした湖の生活に想いを馳せ、心遊ばせた唄たちが収められている。煌々ギター演奏ほか生まれた音楽は細心の音作りが成され、Ian のまさに“Spirit and Light”に象徴される魂が乗り移った唄はかつてなくとも言っても過言ではない程彼らしいヒューマニティーと詩情を高めている。2007 作。North Track)

\*IAN TAMBLYN:Angel's Share B

(Ian Tamblyn らしい素晴らしいアルバム。旅する SSW の Ian の目に映る世界はどれも霊的なほど美しく神秘的に輝いている。感動的な風景や旅の出来事の詩的描写の見事さは本作においてもなお絶品。w. Rodney Brown, Rebecca Campbell, Ken Kanwisher, Fred Guignon, etc. 2004 作。North Track)

\*JENN GRANT:The Beautiful Wild A

(カナダの女性 SSW, Jenn の 4 枚目。米国の女性 SSW の Meg Christian のようなゆったりと漂うような唄なのだが、Jenn は深いポップ・ロック・サウンド効果もあって、奥が深い。またイントロアクションから始まり、Neil Young の「孤独の旅路」っぽい 2 曲目から夢の旅路へと誘って、ラストの 12 曲目、子ども達の唄で終わったかと思っていると、しばらくして Jenn のピアノの弾き語りという展開は長い夢の唄の旅をした気分させる。プロデュースは Daniel Ledwell。2013 作。Blue Rose)

\*AMELIA CURRAN:Spectators A

(Amelia は絶望や寂しさの中から光を求めるような唄が多く、唄から漂う雰囲気は Natalie Merchant を想起させる。闇の中で「キラリ」の素敵な唄たちだ。どこかで 70 年代 SSW のスピリットを引きずっている感じだ。ゲスト:Oh Susanna。2013 作。Blue Rose)

\*OLD MAN LUEDECKE:Tender Is The Night A

(ここ数年で最高にお気に入りのカナダの SSW。この自ら「老人」と名づけたパッセージ弾き SSW のおっさんが住む世界は、唄の世界も音楽的にも田舎っぽい、同時に夢のような世界。その夢のような世界がもう最高。なぜか Tim O'Brien がプロデュースをやっていて、様々な楽器と唄で、まるで長年の相棒のようにわきあいあいと共演している。本当に魅力的な SSW だ。2012 作。True North)

\*DAVID FRANCEY:Live From Folk Alley A

(2005 年 11 月、Kent State Folk Festival でのライブ。伴奏は Shane

- Simpson のギターのみ。David の唄の世界は流れる風景や絵本を眺めているように映像的だ。最後から 2 曲目の“Morning Train”は、リスト、ブッダ、アラーと 駅や列車内で 出会う唄だ。最後に出会うのは悪魔。発想が面白く、実に面白い唄だ。全曲訳詩が欲しいところ。素晴らしい唄と一緒にフェスの空気も味わって欲しい。2012 作。Greentrax)
- \*MURRAY McLAUCHLAN:Swinging On A Star(1988 作。カナダ EMI) B
- \*MURRAY McLAUCHLAN:The Songbook... New Arrivals a  
(M. McLauchlan の本作は“Eddie”というミュージカルの為に Murray が作詞作曲した 14 曲入。Murray の唄は古いジャズやホピュー・ソングを唄うようにソフでノスタルジックで粋なサウンドにのってうたう Murray の唄は気持ちいい。2006 作。EMI)
- \*RAY BONNEVILLE:Bad Man's Blood a  
(南部ロック志向 SSW の R. Bonneville の新作は南部魂を内にしっかりと込めた泥臭い南部志向音楽。好きものには贅沢な料理だ。噛むごとに舌鼓保証。Ray の最高傑作。2011 作。Red House)
- \*WAYNE ROSTAD:Storyteller(1991 作。Stag Creek) C
- \*DAVID WIFFEN:South Of Somewhere(1999 作。True North) C
- \*MAE MOORE:Folklore A  
(カナダの自然や大地の自然現象や風景を入口に夢物語の世界へと誘うカナダ人のセンスが微細に発揮された見事な女性 SSW アルバムだ。Mae の唄はどの唄も自然や大地を描いた不思議な絵のよう。すぐにイメージするのはやはり Joni Mitchell。Mae の音楽性は丁度 Joni Mitchell の初期からジャズっぽい“Court And Spark”までの幅でキラと光るサウンドと唄とで魅了する。カナダの SSW の感性が光る名盤だ。2010 作。Poetical)
- \*DEVON SPROULE:Don't Hurry For Heaven! A  
(カナダ生まれの米国ヴァージニア州の 100 人のコミュニティで育った Devon の本作は 60 年代～70 年代ロックの感触の諧謔的音楽を含め子悪魔的魅力全開。2010 作。Black Hen Music)
- \*DEVON SPROULE:Upstate Songs A  
(2003 年作。アコースティック演奏による軽やかにひるがえるヴォーカルの少女っぽさと新鮮さそして夢見心地さはすこぶる魅力。胸キュン。2003 作。Tin Angel)
- \*JOHN WORT HANNAM:Queen's Hotel A  
(本作が四枚目というカナダの SSW の J. W. Hannam の第一印象は Rodney Brown。ヴォーカルの質も似ているが、Rodney のようにマイペースで、温厚で、どこか爽やかな風が吹いているような感じも似ている。違うのはこちらの方がやや渋めというか、一歩引いた大人の哀感も感じられることだろうか。さりげなさがとても快い良質の SSW アルバムだ。w. Steve Dawson, John Reischman, Jenny Whiteley, etc. 2009 作。Black Hen Music)
- \*COLIN LINDEN:Sad&Beautiful World 1975-1999 A  
(The Band 系南部ロックに深く傾倒する C. Linden の初期音源中心の 18 曲入編集 CD。2004 作。True North)
- \*GREAT LAKE SWIMMERS:Lost Channels a  
(カントリー・ロック・ファン大推薦。かれらの音楽は 70 年代ロックに夢のヴェールを掛

けた感じで、70年代ロック・ファンの弱い部分をくすぐる夢の音世界を創作し切っている。天下一品。2009作。イギリスNettwerk)

- \*FRED EAGLESMITH:Dusty A  
(Fredの本作は何か鎮魂歌のように物悲しく緩やかに流れてく。祈るようなFredのヴォーカルはじわりじわりと感動的。Scott MerrittのプロデュースはこれまでのFredのルーツ・ロック的音作りとは一線を画した自由な発想による唄のイメージに即したものの。絶品！ Major Label)
- \*VEDA HILLE:This Riot Life A  
(通算12枚目になる個性的SSWのVedaの本作は不思議音楽。ピアノで音遊びしながら生まれたような彼女の唄は独り夢の中を旅する感覚の音楽。2008作。Ape House)
- \*VALDY & GARY FJELLGARD:Still In The Running A  
(副題“Contenders Two”。まさかの二人の嬉しい2枚目。齢を重ねたじいさんSSWお二人の温かな唄達。昔っから好きなValdyのヴォーカルは相変わらず。Ian Tamblynの“Bay Of Sails”やJohn Prineの“Speed Of The Sound Of Loneliness”やMicky Newburyの“Them Old Snogs”等二人それぞれがヴォーカル&デュエットで人なつっこそうな唄を二人の活きの良いギターとマンダリンの伴奏でうたう。ヒューマン・ソング・ファン、心あったか保証。2007作。Stony Plain)
- \*TIM WILLIAMS:Songster, Musicianer, Music Physicianer A  
(ボトルネック・ギター等ブルース・ギターを弾き年季の入ったブルースやブルース風自作曲を悠々とうたう。長年活動を共にしているバンドが数曲で共演してはいるが、バンドのヴォーカル&ギターとしての印象よりブルース・タイプのSSW的なコのある味わい。一匹狼の風格。2007作。Cayuse Music)
- \*EILEEN McGANN:Beyond The Storm(Dragonwing) A
- \*JANE SIBERRY:Shushan The Palace A  
(カナダの女性SSWのJaneの本作は副題“Hymns of Earth”のクリスマス時期にあわせて制作された主に数世紀前のヘンデルやバッハ作曲曲を含む聖歌集。Janeならではの優美な聖歌の世界。2003作。Sheeba)
- \*ENNIS SISTERS:Christmas B  
(ニューファウンドラントンの美人3姉妹による美しいクリスマス・アルバム。トラッド色も無いことも無いが、彼女等本来のフォーク〜カントリーなサウンドの姉妹の美声が活かされたフレッシュなクリスマス・アルバム。新年を祝うダンサブルな楽しい唄で幕。これはケープ・ブレント・トラッド色濃厚なトラッド・ロック。2002作。Warner)
- \*TIM HARRISON:Tim Harrison ¥1000  
(名作79年作“Train Goin’ East”と85年作“In the Barroom Light”からの10曲を新たに録音したもの。99作。Second Avenue Songs)
- \*KENNY BUTTERILL:Just A Songwriter B  
(米国在住カナダ人SSW、Kennyの本作はバック&ゲスト{Willie P. Bennett, Ray Bonneville, Norton Buffalo, Joe Weed, Larry Hosford, Mary McGaslin, etc.}もばっちり固めたJ. J. Gale風似込み味SSWアルバム。2003作。No Bull Songs)
- \*RAY MATERICK:Rockin’ The El Mocambo 82 a  
(CD-R。“El Macambo Tavern”での82年の重厚ライブ。ギター、ベース、

ドラムス、チェロ、サクシによるバックはトーストス重戦車のパワー。Ray のヴォーカルは火の玉。スローもアップテンポも手に汗握る入魂のロック。2002 作。KingKong)

- \*RAY MATERICK: Ashes And Dust a  
(CD-R。最も音作りばっちりの僕等が知る 70 年代の Ray 風。ベース奏者がに懐かしい Tim Drummond。Ray のしゃがれ声の唄とがっちり噛み合うタイトな 70 年代風ロック。すべてが理想の SSW アルバム。Steve Smith のスティールギターも Michael Fanferra のオルガンも Lisa Winn & Bob Lamothe のバックヴォーカルもいい味わいた。抜群！2001 作。King Kong)
- \*SCHULD & STAMER: You Got The Bread... We Got The Jam a  
(Stamer が全面的にヴォーカル。もうロックの J. B. Lenoir 作 "Voodoo Music" から Stamer の泥つとしたブルース・ミュージックの世界へ引きづり込まれる。ゲストの Long John Baldry もヴォーカルで 4 曲飛び入り。生きたブルース。絶句。98 作。Blue Streak)
- \*SHANNON LYON: Tales Of A Yellow Heart A  
(2000 年作 "Summer Blonde" が人気だった S. Lyon の 97 年作。まるで Neil Young with Crazy Horse。粗削りな 70 年代風ロック。97 作。Swallow)
- \*KATHY PHIPPARD: Outside Lookin' In B  
(ニューファンドランドの個性派女性 SSW のデビュー作。ピアノの弾き語りを中心に感情の起伏の大きな唄達は魅力。極めてかたがの SSW 的個性。音作りも七変化。98 作。Candle View)
- \*TAMMY FASSAERT: Corner Of My Eye A  
(ヴァンクーバー島ナナイモ出身のさわやかな女性 SSW アルバム。ブルグラスとフォークがアコースティックに気持ちよくブレンド。彼女の濁りのなさは貴重。2000 作。Tam Can)
- \*THE SWALLOWS: Turning Blue A  
(Blue Rodeo の Glenn Milchem が The Swallows という名で作ったデビュー作。70 年代ブリティッシュ・フォーク〜ロック的香り漂う不思議ロック。ジャケットもサイケ調。2000 作。Magnetic Angel)
- \*TONY KOSINEC: Almost Pretty A  
(T. Kosinec の 79 作の 4 枚目。2000 作。Vivid)
- \*SNEEZY WATERS: A Letter Home B  
(テキサス・ミュージックやブルースをベースにした雑食性に富むルーツ・ロック。Sneezy らしい個性が盛り込まれている。ヴェトナムの風格。97 作。Watershed)
- \*GORDON LIGHTFOOT: A Painter Passing Through a  
(G. Lightfoot の本作は、清々しくもある種枯淡の境地。w. Daniel Lanois, Willie P. Bennett, Barry Keane, Terry Clements, etc. 98 作。Reprise)
- \*FRANCESCA: Au-Dela Des Couleurs B  
(フランス語、スペイン語、イタリア語、英語でつぶやくように、また情熱的に唄う地中海ムードの女性 SSW アルバム。かなりの本格派だ。99 作。BMG)